

KPI(アウトカム)とは・・・講師派遣の受講者を対象に「受講前」、「受講直後」、「受講9か月後」の3回にわたって同一のアンケートに回答して貰うことで、金融経済教育を受けたことによる変化を測定したものの。

- ・ 具体的には、継続的なアンケートが実施可能な職域への講師派遣を対象に調査を実施※。
- ・ なお、「受講9か月後」アンケートは、J-FLECが2024年8月より本格稼働を開始したことから、今後実施・集計予定。

アウトカム

金融リテラシーの向上

KPI

「金融知識・判断力」
関連設問の正答率

目標

正答率を
欧米並み(70%)
に引き上げ

※現状の正答率は40～50%

- ◆ 【金融リテラシーの向上】については、金融リテラシー調査(2022)での正答率が40～50%程度であった「複利」「分散投資」「保険」に関する正誤問題(3問)を出題(次頁参照)。
- ◆ 2024年度の結果をみると、「分散投資」は、「受講前」「受講直後」とも正答率が70%以上と目標水準(欧米並み)に達しているほか、「受講前」から「受講直後」に向けて正答率の向上がみられている。
- ◆ もっとも、「複利」「保険」は、「受講直後」の正答率が目標水準に達していないほか、「受講前」から「受講直後」に向けて正答率の向上もみられていない。

▼2024年度の達成状況(アウトカム【金融リテラシーの向上】)

	正答率		変化幅 (B)-(A)
	受講前(A)	受講直後(B)	
3問計	72.4%	72.2%	▲0.2%
Q1:複利	64.9%	64.1%	▲0.8%
Q2:分散投資	74.3%	83.5%	9.2%
Q3:保険	78.1%	68.9%	▲9.2%

※ 無記名で行っているため、3回のアンケート調査の回答者は必ずしも一致しない(以下同じ)。

【今後の対応等】

- ◆ 目標水準に達しておらず、正答率の向上もみられていない「複利」「保険」を含めて、講義内容・資料の改善や講師の研修強化に努めていくこととしたい。

【参考:「金融知識・判断力」に関する設問】

Q1	100万円を年率2%の利息が複利でつく預金口座に預け入れました。これ以外に口座への入金や出金がなかった場合、5年後には口座の残高はいくらになっているでしょうか。利息に掛る税金は考慮せずにご回答ください。
A1	1. 110万円より多い(正答率:42.5%) 2. ちょうど110万円 3. 110万円より少ない 4. 上記の条件だけでは答えられない 5. わからない
Q2	次の文章が正しいかどうかをご回答ください。 1社の株を買うことは、通常、株式投資信託(何社かの株式に投資する金融商品)を買うよりも安全な投資である。
A2	1. 正しい 2. 間違っている(同:50.2%) 3. わからない
Q3	保険の基本的な働きに関する次の記述のうち、適切なものはどれでしょうか。
A3	1. リスクの発生頻度は高いが、発生すると損失が大きい場合に有効である 2. リスクの発生頻度は低いが、発生すると損失が大きい場合に有効である(同:50.0%) 3. リスクの発生頻度は高いが、発生すると損失が小さい場合に有効である 4. リスクの発生頻度は低いが、発生すると損失が小さい場合に有効である 5. わからない

記載の正答率は「金融リテラシー調査(2022)」結果

<保険> : 講義資料の見直し

⇒ 現行の講義資料では、保険の目的を「万一の支出・収入減への備え」と説明しているものの、さらに保険の基本的な働きがより分かりやすく理解できるよう、講義資料を見直すことが必要。

<複利> : より丁寧な説明を徹底

⇒ 複利については、講義資料において計算式や図を用いてわかりやすく解説。受講者の理解を深めるため、講義において丁寧な説明を特に行うよう、講師向け研修の充実等が必要。

<複利①>

J-FLEC ④ 長期投資 – 複利とは？

○ 預貯金や投資では、『**単利**』と『**複利**』という考え方があります。

- 単利：元本のみに利息がつく計算方法
- 複利：元本と利息を合わせた額に利息がつく計算方法

100万円を利率5% で運用する場合（税金等は考えない）

単利の場合

1年後：100万円 + 100万円 × 5% = 105万円

2年後：105万円 + (100万円 × 5%) = 110万円

複利の場合

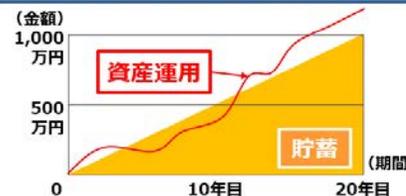
1年後：100万円 + 100万円 × 5% = 105万円

2年後：105万円 + (105万円 × 5%) = 110万2500円

複利の場合は元本の100万円だけではなく、利息の5万円にも利息がつくため、より多く資産が増えることになります。

J-FLEC ⑥ 資産形成は三角△、保険は四角□

資産形成のイメージ（三角△）



保険のイメージ（四角□）



目的 将来のライフイベント費用



- 特徴
- 貯めたお金は様々な目的に使える。
 - 少しずつ増えるので計画性が必要。
 - 運用次第で資産が増減する。
 - 想定外の支出には必要な金額に満たない場合がある。

目的 万一の支出・収入減への備え



- 特徴
- 万一の支出に備えて保険料を支払う。
 - 加入後はいつ保険事故が発生しても保険金を受け取れる。
 - 介護・長寿による収入減なども保障。
 - 社会保険 + 民間保険で保障。

<複利②>

J-FLEC ④ 長期投資 – 単利と複利

○ 『**単利と複利では長期間で考えると大きな差**』が出ます。

- 単利：元本のみに利息がつく計算方法
- 複利：元本と利息を合わせた額に利息がつく計算方法

100万円を利率5%、1年複利で運用（利息は税引き前）



複利の効果を得るためにも、資産形成は長い時間コツコツ続けていくことが重要です。

- ◆【金融意識・行動の変容】については、以下の2つの設問で「受講前」から「受講直後」「受講9か月後」に向けての、意識・行動の変容を測定。

アウトカム

金融意識・行動の変容

①生活設計等への意識を持つ割合・取組み率

②外部知見の活用率

①・②の割合を
受講前比
10%以上向上

KPI

目標

▼2024年度の達成状況(アウトカム【金融意識・行動の変容】)

【設問①:生活設計の策定】あなたのご家庭では、将来のことを考えて生活設計(将来の生活について「何をしたいか・いくら必要か」等の構想・プランを描くこと)を立てていますか。

回 答	アンケート結果	
	受講前(A)	受講直後(B)
生活設計を立てている	32.4%	32.5%
現在生活設計を立てていないが、今後は立てるつもりである	59.7%	63.4%
現在生活設計を立てていないし、今後も立てるつもりはない	7.9%	4.2%

(参 考)

意識・行動の変容(B)-(A)	カケキン調査 [※] (2024年)結果
3.7%	33.9%
▲3.7%	42.8%
	23.3%

※家計の金融行動に関する世論調査(2024年)・二人以上世帯における調査結果(調査対象:5千世帯)

【設問②:外部知見の活用】あなたは、過去1年間に、専門家(J-FLECの認定アドバイザーやファイナンシャルプランナー)や金融機関などに、生活設計、家計管理、資産形成など、お金の相談をしたことがありますか。

回 答	アンケート結果	
	受講前(A)	受講直後(B)
ある。今後、定期的または必要に応じて相談するつもりである	13.9%	11.1%
ないが今後相談するつもりである	32.8%	32.8%
ない。今後相談するつもりはない	53.2%	56.1%

意識・行動の変容(B)-(A)
▲2.8%
2.8%

【設問①:生活設計の策定】

- ◆ 生活設計の策定は、改善の余地はあるものの、「受講前」から「受講直後」にむけて“意識”の変容がみられた。
- ◆ 「受講9か月後」において、こうした“意識”の変容が行動の変容(生活設計の策定)に結びつくかがポイント。

【設問②:外部知見の活用】

- ◆ 外部知見の活用については、意識・行動の変容がみられなかった。
- ◆ この背景としては、以下のような要因があるものと思慮。
 - ・ 受講した知識を活用する等して、「まずは、自分でやってみよう」と考えており、外部知見の活用の必要性までは感じていない可能性。
 - ・ 外部知見の活用に関する効用について、講義で十分に説明できていない可能性。

【今後の対応等】

- ◆ 受講者に、生活設計の策定や、外部知見の活用などの次のステップへ進んでいただけるよう、講義資料の最後に、受講者が自分自身の金融経済に関する知識・行動等のレベル感を把握し、今後ステップアップするための具体的な行動や、そのために活用できるJ-FLECの提供ツール(各種動画・教材、個別相談)等を示したスライドを追加するなどにより、講義内容の充実を図る。
- ◆ これに加え、J-FLEC・HP掲載コンテンツの充実および、SNSの活用等によるJ-FLEC・HPへの誘導強化を図ることにより、受講者の意識・行動の変容をサポートする取組みを強化していくこととしたい。